

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年2月17日

事業所名 POCCO音の泉しょうわちゅうおう

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		活動するのに、十分な広さである。	
	2 職員の配置数は適切である	6		適切な配置人数で行っている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		危険箇所は、予め話合っている。	ガラス張りなので、外に目が行ってしまわないよう、ロールカーテンを設置した。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		こまめな消毒を心がけている。活動用具は毎日消毒。	療育室にはエアドッグを設置。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		月一回のミーティングを開き、話合っている。	これからも、何でも話し合える環境を大切にしていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		結果が集計できた時点で会議を行う。	保護者の意見を真摯に受け止め、改善策を全職員で考える。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		結果が集計できた時点で会議を行う。	改善点を話し合い、安心できる事業所づくりを目指す。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6		第三者の評価を真摯に受け止めていく。	第三者の意見を積極的に聞く。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		定期的に行われる研修会に積極的に参加している。	資質の向上の意識を常に持つ。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		送迎時などに保護者と話し合い、寄り添っていく。	保護者が話しやすい環境になるよう、気をつける。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		適応行動を知るために職員間で話し合い、情報共有している。	併用している事業所の職員とも情報共有している。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		相談員と連携を取りながら、ガイドラインに沿った支援内容を設定している。	支援内容は、分かりやすく具体的なものを設定する。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		職員間で意見を出し合いながら、支援をしている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6		飽きのこない楽しいプログラムを考え、行っている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		子どもたちの興味を弾ける内容や発達に合わせた内容を考えている。	リトミックでは、新しいリズムの聞き取りに取り組んでいる。毎月の歌では楽しく歌えるものを選び、全員が達成感を味わえるような取り組みを工夫している。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		音楽療育は集団が基本となっているが、臨機応変に個別対応の場合もある。	時と場合によって、柔軟な対応を心がける。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		毎回打ち合わせの時間を設け、担当を決めている。	臨機応変に対応できるよう、職員間ですべて担当できるように準備している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		毎回、必ず振り返りを行っている。	ふり返りの習慣をつける。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		その日のうちに、ケア記録を記入し、保護者に公開している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		保護者との話し合いの時間を作り、目標を立てている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		責任者が参加することが多いが、どの職員でも参加できるよう、情報共有している。	常に、情報共有している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		定期的なモニタリング会議や関係者会議を設けて、意見を出し合っている。	相談所、相談員との連携を密にする。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6		現在は、対象時はない。	今後、そのような場面がある時には、しっかりと連携を取っていききたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6		現在は、対象時はない。	今後、そのような場面がある時には、しっかりと連携を取っていききたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		相談員を交え、モニタリング会議や電話等で情報共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		相談員を交え、モニタリング会議や電話等で情報共有している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		多くの相談所、相談員と連絡を取り合っている。	研修が行われる場合には、積極的に職員全員で参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	4	児童発達支援では、音楽活動をメインで行っている為、他の交流はない。	コロナウイルスが終息した際は、機会を作り訪問したい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	2	地域で行われる会議がある場合には、参加している。	協議会などからの会議のお誘いがあった場合には、積極的に参加する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		送迎時に話をしたり、HUGを通して子どもの様子を伝えている。	コメントの返信も多くあり、理解し合える関係を続けていきたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6		相談力向上の為、職員全員で研修に参加している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に時間を取り、丁寧にわかりやすく説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		保護者には、説明をしながら納得をいただいている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		日頃から悩み等を伺い助言できている。また、難しい案件には、顧問の山内先生の無料相談会を紹介している。	定期的に行われる山内先生の相談会をお知らせする。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6	コロナ禍であるため、そのような機会はない。	コロナ終息後、開催する時にはしっかりと支援に努めていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		日頃から、HUGの連絡や公式LINEにて保護者からの相談等を受けることができている。	引き続き、迅速な対応を心がけていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		会報誌は無いが公式LINEやSNSを通じて、様々な情報を発信している。	公式LINEやSNSを全保護者に周知する。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		書類は施錠し、漏洩の無いように管理保管している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		職員間で、情報共有している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	コロナ禍の為、地域住民との交流はできていない。	コロナ終息後は、そのような機会を作り、相互に楽しい行事を行いたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアルをもとに訓練を行っている。感染症マニュアルをもとに、日々徹底した感染症対策を行っている。	POCCOスタディとの定期的な合同訓練を計画し、実行する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		定期的に行っている。防災頭巾がかぶれない子どもには、少しずつ練習をする。	POCCOスタディとの定期的な合同訓練を計画し、実行する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6		契約時に保護者から伺っている。ダイアップが必要な子どもには、予め薬を預かり、万一の時に対応できるようにしている。	職員間での共有。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		契約時にアレルギーについての同意書をいただいている。	全職員で共有できるよう、目につくところへ貼り出している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		月に一回、社内全体で様々な案件を検討している。	事業所内で、全職員と情報共有する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		社内で適正化委員会を中心に職員研修を行い、全体で参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		契約時に、保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている。	やむを得ず行われそうな子どもには、個別支援計画に記載する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。